

(3) 専兼業の状態

① 専兼業別事業所数

専兼業別の事業所数についてみると、水産加工業を専業とする事業所は 43.3%を占めている。加工種類別では、「水産練製品」(58.6%)、「塩蔵品」(51.7%)における割合が高くなっている。

一方、水産加工業以外の業種を兼ねている事業所は、56.7%であり、うち水産加工業が主の事業所は 25.4%、水産加工業が従の事業所は 31.2%となっている。

加工種類別で兼業の割合が高いのは、「水産缶詰・瓶詰」(76.5%)、「海藻加工品」(74.3%)、「調味加工品」(72.1%)であり、7割以上となっている。

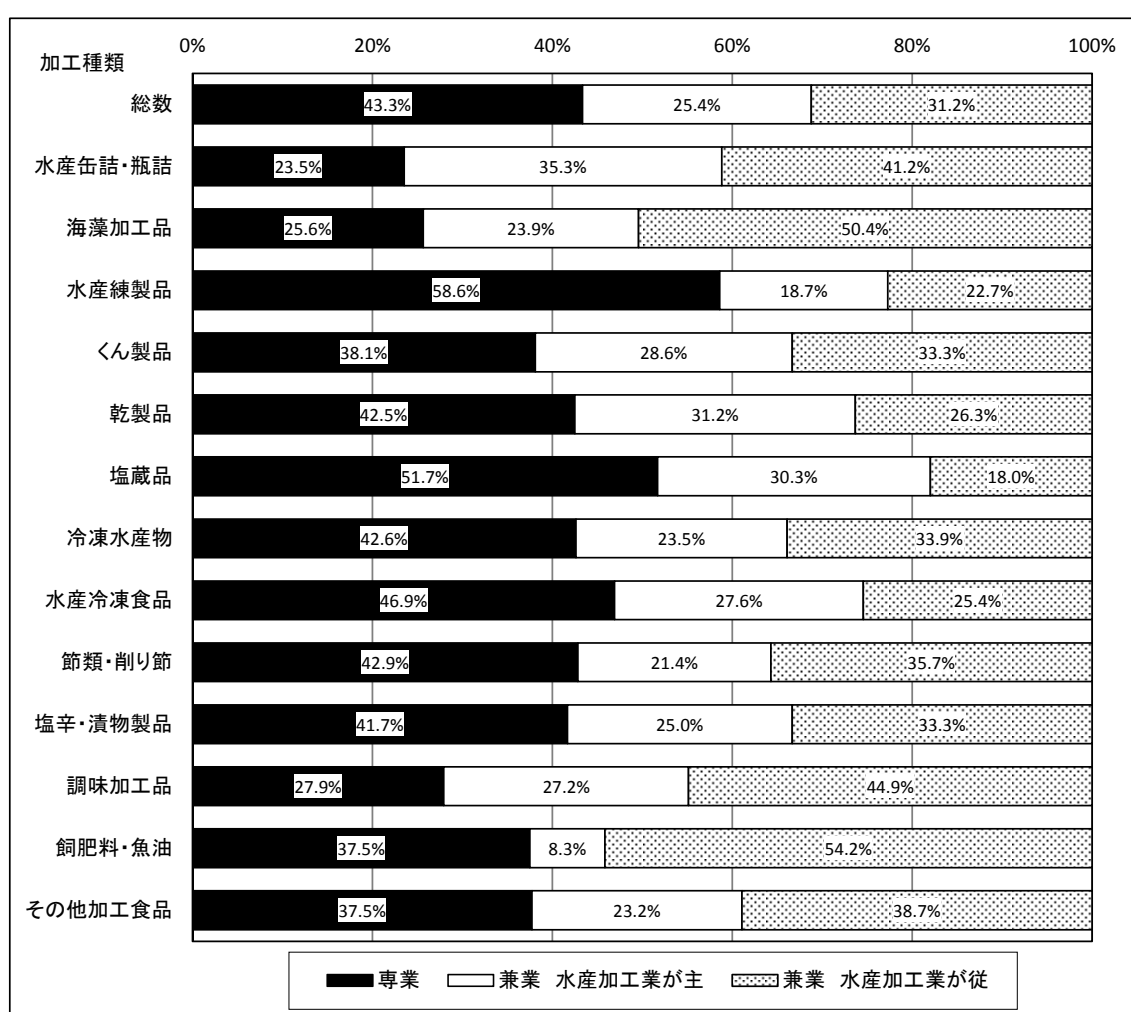


図 II-1-6 専兼業の状態(構成比)

② 水産加工業以外の業種への兼業

水産加工業以外の業種との兼業について、兼業している業種をみると、水産加工業全体では「小売業」が53.2%で最も高く、次いで、「問屋仲買業」が24.2%、「食料品製造業」が21.8%と続いている。

加工種類別にみると、「水産缶詰・瓶詰」や「くん製品」以外の業種では「小売業」の割合が最も高くなっている。

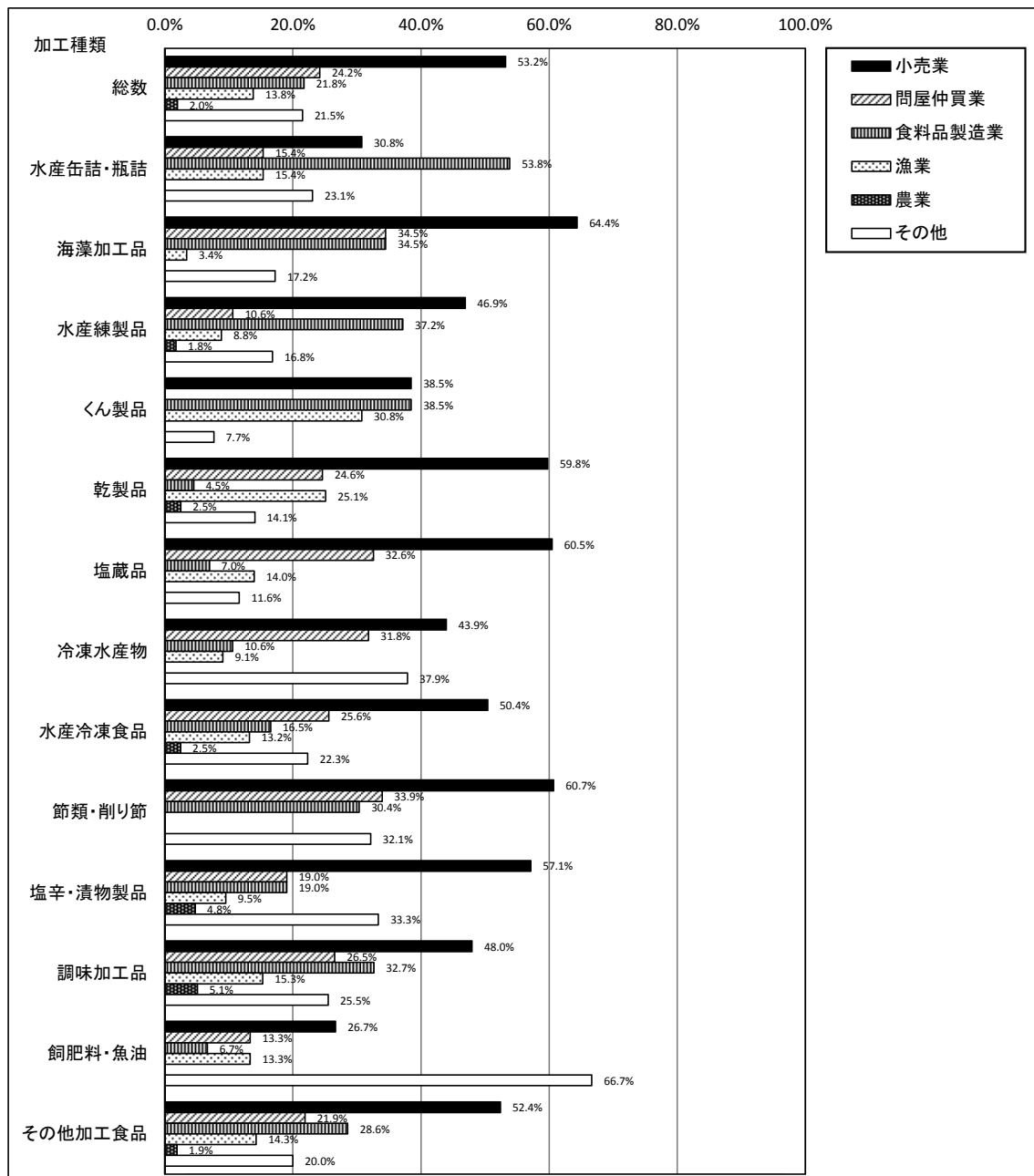


図 II-1-7 水産加工業種以外の業種への兼業状況(出現率)